

52 回生シラバス

科目名： 看護実践能力の統合		担当者： ①教務長（臨床実務経験有） ②③④⑤⑥⑦専任教員（臨床実務経験有） ⑧実習指導教員（臨床実務経験有）	総時間数（回数）： 15（8）	時期： 2年後期
単位数： 1				
科目目標： ・臨地実習に臨むにあたり、看護学生として自己の実践能力の課題を明確にし必要な学習に主体的に取り組む ・対象との関わりを通して、状況に応じた援助を考え、安全・安楽、倫理的に実施する。				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1	ガイダンス 課題提示 試験に関する注意事項	・状況設定のある看護技術課題について、グループで協力して主体的に取り組むことができる 1. ガイダンス（課題学習の進め方） 2. 課題提示	講義 ①	配付資料
2	受け持ち患者情報収集	1. 模擬カルテより情報収集	演習 ①	
3	技術演習	1. 受け持ち患者に必要なと思われる日常生活援助技術	演習 ①	
4				
5	客観的臨床能力試験（OSCE）	・当日指示される課題の実施とリフレクション ※具体的な実施計画は別に提示する。	客観的臨床能力試験 ①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩ リフレクションシートの提出	
6				
7				
8				
配付資料 ① 課題（事例） ② 学生ガイダンス資料 ③ 実施後リフレクションシート			評価方法 客観的臨床能力試験 100点	
			評価基準 60点以上で合格とする。	

担当者①②③④⑤⑥⑦⑧⑨実務経験あり

51 回生シラバス

科目名： 災害看護	単位数： 1	担当者：①教務長（臨床実務経験有） ②外部講師	総時間数（回数）： 30（15）	時期： 3年後期
科目目標： ・災害医療、災害看護についての基礎知識が理解できる ・災害時各期における看護の実践について理解できる ・一時救命処置、止血法の基本的技術を習得する				
習得すべき看護技術 「緊急時の応援要請」、「一時救命処置（BLS）」、「止血法」				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	事前課題 学習範囲
1	災害看護を学ぶにあたって 【災害看護学】 A 災害看護の歩み B 災害医療の基礎知識	・災害看護を学ぶ意義や看護の原則について理解する 1. 看護とグローバル化した社会 2. 求められる災害看護学と国際看護学 3. 災害看護・国際看護の原則 ・災害医療、災害看護についての基礎知識と看護について理解する 1. 災害の定義 2. 災害の種類と健康障害 3. 災害医療の特徴—CSCATTT トリアージ 4. マスギャザリングとNBC 災害への対応 5. 災害と情報 6. 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 7. 災害看護と法律 8. 近年の災害における課題と対策	講義 ①	教科書① 第1章 教科書① 第2章
2	C 災害看護の基礎知識	1. 災害看護の定義と役割 2. 災害看護の対象 3. 災害看護の特徴と看護活動 4. 災害看護活動に必要な情報 5. 災害看護活動におけるアセスメント 6. 災害看護場面におけるジレンマ	講義 ① DVD1	教科書① 第2章
3	D 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	1. 急性期・亜急性期 —被災病院の初動体制 —救護所立ち上げと傷病者への対応 —避難所における健康と生活支援 2. 慢性期・復興期 —応急仮設住宅における生活支援 3. 静穏期	講義 ① DVD4 DVD5 DVD8	教科書① 第2章
4	E 被災者特性に応じた災害看護の展開	1. 子どもに対する災害看護 2. 妊産婦に対する災害看護 3. 高齢者に対する災害看護 4. 障害者に対する災害看護 5. 精神障害者に対する災害看護 6. 慢性疾患患者に対する災害看護 7. 原子力災害による被災者への看護 8. 在留外国人に対する災害看護	講義 ①	教科書① 第2章

5	F 災害とこころのケア	1. 災害がもたらす精神的影響 2. こころのケアとは 3. 被災者のこころのケア 4. 遺族のこころのケア（グリーフケア） 5. 被災救援者のこころのケア 6. 救援者のストレスとこころのケア	講義 ①	教科書① 第2章
6	【地震災害看護の展開】 A 発災直後から出動までの看護 B 急性期の看護 C 亜急性期の看護 D 慢性期・復興期の看護	1. 災害発生直後の情報 2. 出動までの対応 1. 出動 2. 救護活動の実際 3. はじめての災害救護活動を終えてのまとめ 1. 災害発生から2週間後の状況 2. 出動までの情報 3. 救護活動の実際 1. 災害発生から2か月後の状況 2. 出動までの情報 3. 救護活動の実際	講義 ①	教科書①
7	【救護活動に必要な技術】	・救護活動に必要な知識・技術を学ぶ。	赤十字救急法講習	第3章 教科書②
8	救急法	1. 手当の基本		
9		1) 観察の基本		
10		2) 体位の基本	演習	
		3) 傷病者への接し方	実技試験	
		4) 協力者の要請・連絡・通報	「応援要請」	
11		2. 一次救命処置（BLS）	「一次救命処置（BLS）」	
12		1) 一次救命処置の手順		
13		2) 心肺蘇生（CPR）		
14		3) 気道の確保・胸骨圧迫・人工呼吸		
		4) AEDを用いた除細動		
		3. 止血	「止血」	
		1) 直接圧迫止血		
		2) 止血帯止血法		
		1. 「緊急時の応援要請」		
		2. 「一時救命処置（気道確保・AED）」		
		3. 「止血法の実施」		
5	終講試験		試験 ①	
教科書 1. （系看）統合【3】災害看護学・国際看護学（eテキスト 医学書院） 2. 赤十字救急法基礎講習教本（日本赤十字社）（救急法受講時に購入配付） 参考DVD 1 災害時のケア①トリアージ 2 災害時のケア②外傷の応急処置 3 実践編「災害看護への取り組み」			評価方法 筆記試験 85点 実技試験 15点	
			評価基準 60点以上で合格	

4. リアルに再現Ⅰ 病院における災害対応—事前対策・CSCA— 5. リアルに再現Ⅱ 医療救護所における災害対応—集団管理・トリアージ— 6. リアルの再現Ⅲ 社会福祉施設における災害対応—対策本部立ち上げ・避難行動— 7. リアルに再現Ⅳ 在宅における災害看護—事前対策・社会資源の活用— 8. リアルに再現Ⅴ 避難所における災害対応 1—CSCA・健康問題の予防— 9. リアルに再現Ⅵ 避難所における災害対応 2—倫理的配慮・多職種連携— 10. 3.11 岩手・大津波の記録～2011 東日本大震災（IBC 岩手放送） 11. 秘蔵映像 DVD ムック東日本大震災 被災ケーブルテレビ局が捉えた魂の記録映像（日本ケーブルテレビ連盟） 12. 証言記録 東日本大震災 第 21 回福島県富岡町～災害弱者突然の避難～（NHK エンタープライズ）	
--	--

担当者①実務経験あり

51 回生シラバス

科目名： 看護管理	単位数： 1	担当者： ①副校長（臨床実務経験有） ②看護師（医療安全管理者）	総時間数（回数）： 30（15）	時期： 3 年前期
科目目標： ・看護管理の意義と看護における様々なマネジメントについて理解する。 ・医療安全の基礎知識を学び事故防止に対する考え方を理解する。 ・国際社会における看護師としての諸外国との協力について考える。				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1	看護とマネジメント 看護ケアのマネジメント	・看護管理の意義と看護における様々なマネジメントについて理解する。 1. 看護管理学とは 2. 看護におけるマネジメント 3. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 4. 患者の権利の尊重 5. 安全管理 6. チーム医療 7. 看護業務の実践	講義 ①	教科書①第 1 章 教科書①第 2 章
2	看護職のセルフマネジメント	・専門職としてのキャリア形成（セルフマネジメント）について理解する。 1. 看護職のキャリア形成 2. タイムマネジメント 3. ストレスマネジメント	講義 ①	教科書①第 3 章
3 4	看護サービスのマネジメント	・看護サービスのマネジメントについて理解する。 1. 看護サービスのマネジメント 2. 組織目的達成のマネジメント 3. 看護サービス提供のしくみづくり 4. 施設・設備環境のマネジメント 5. 物品のマネジメント 6. 情報のマネジメント 7. リスクマネジメント 8. サービスの評価	講義 ① 講義 ①	教科書①第 4 章
5	マネジメントに必要な知識と技術	・マネジメントに必要な知識と技術を理解する 1. マネジメントとは 2. 組織とマネジメント 3. リーダーシップとマネジメント 4. 組織の調整	講義 ①	教科書①第 5 章
6	看護を取り巻く諸制度	・看護を取り巻く諸制度について理解する。 1. 看護の定義 2. 看護職 3. 医療制度 4. 看護政策と制度	講義 ①	教科書①第 6 章
7	国際看護	・国際看護の定義と医療における異文化理解について理解する。 1. 国際看護とは 2. グローバルヘルス 3. 国際協力のしくみ 4. 文化を考慮した看護 5. 国際協力と看護、国際救援と看護	講義 ①	教科書③第 4 章

8	事故防止の考え方	・事故防止の考え方について理解する。 1. 医療事故と看護業務 2. 看護事故の構造 3. 看護事故防止の考え方	講義 ②	教科書②第1章
9	診療の補助の事故防止	1. 注射業務と事故防止 2. 輸血業務と事故防止 3. 内服与薬業務と事故防止 4. 経管栄養業務と事故防止 5. チューブ管理と事故防止	講義 ②	教科書②第2章
10	療養上の世話の事故防止	1. 転倒転落防止 2. 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 3. 入浴中の事故防止	講義 ②	教科書②第3章
	地域における在宅療養者の安全	1. 在宅療養中の医療行為における事故防止	講義 ②	教科書②第6章
	業務領域を超えて共通する間違いと発生要因	1. 患者間違い 2. 間違いを誘発する多重課題 3. 新人特有の思い込みと行動パターン	講義 ②	教科書②第4章
11	医療安全とコミュニケーション	1. 事故防止のための医療職コミュニケーション	講義 ②	教科書②第5章
	看護師の労働安全衛生上の事故防止	1. 職業感染 2. 抗がん剤曝露防止 3. 放射線曝露防止 4. ラテックスアレルギー 5. 院内暴力		教科書②第7章
12	組織的な安全管理体制	1. 組織としての医療安全対策	講義 ①	教科書②第8章
13	看護学生の実習と安全事例から学ぶ事故防止	2. システムとしての事故防止の具体例 3. 重大事故発生時の医療チーム及び組織の対応 4. 事故予防および事故発生時の学生の対応	講義 ②	教科書④
	技術到達項目	・事例から事故の原因・要因及び事故防止策を学ぶ。 *インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告		
14	全体討議	提示された事例を教材に、事故の原因・要因及び事故防止対策をグループで検討・全体討議	演習 ① ②	
15	終講試験		試験	
教科書			評価方法	筆記試験
①	(系看) 看護管理	(医学書院 e テキスト)	【配点】 医療安全管理者 50 点 副校長 50 点	
②	(系看) 医療安全	(医学書院 e テキスト)		
③	(系看) 国際看護学	(医学書院 e テキスト)	評価基準 60 点以上で合格とする。	
④	医療安全ワークブック	(医学書院)		

担当者①②実務経験あり

51 回生シラバス

科目名：	単位数：	担当者：	総時間数(回数)：	時期：
看護観の表現	1	①専任教員（臨床実務経験有）	15（8）	3 年後期
科目目標：				
・学習した看護の知識や実習での体験をふまえて「自己の看護観」を表現し、このことを通して看護師としての自己認識を確立する。				
回	単元	単元目標と内容	方法 担当	学習範囲 事前課題
1	オリエンテーション	・本科目の学習の進め方を理解し、主体的に取り組むことができる。 1. オリエンテーション	講義	配付資料 ①
2	看護観の文章化	・自己の看護観を追求し小論文として整理する 1. 自己の実習体験を振り返り、看護とは何か、看護に大切なことを丁寧に追求し、看護師としての自己像を確立する。 2. 看護理論や看護の定義について、文献を用いて再学習する。 3. 自己の考えをわかりやすく他者に伝わるように、文章化する	演習	
3				
4				
5				
6				
7	看護観発表会	・実習を振り返り、深めた自己の看護観を表現し、「看護師としての自己像」を明確にする。 1. 「看護観の表現」発表	発表会 副校長・教員	
8				
配付資料 ① 学生ガイダンス資料			評価方法	
参考書 ①やさしい看護理論（メディカ出版） ②看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル（医学書院） ③看護学生のためのレポート・論文の書き方（金芳堂）			看護観 100 点 （看護観の成文化をもって 100 点とする。 取り組み姿勢によって減点する場合がある。）	
			評価基準 60 点以上で合格とする	

担当者①実務経験あり